

マルカメムシによるカンキツ新梢の被害

マルカメムシがカンキツの果実や新梢に多数寄生したり、特に、新梢では萎れが発生している事例も見られたが、その被害は明らかではない。そこで、マルカメムシの寄生による被害や薬効について検討した。

○被害

マメ科植物(特にクズなど)が近隣にある場合は、発生が多くなる。



写真1: 新梢に寄生するマルカメムシ

写真2、3: 宮川早生の新梢にネットを被せ、マルカメムシを数十頭を放虫したところ、枝部や葉に褐変症状(黄色円内)が現れた。

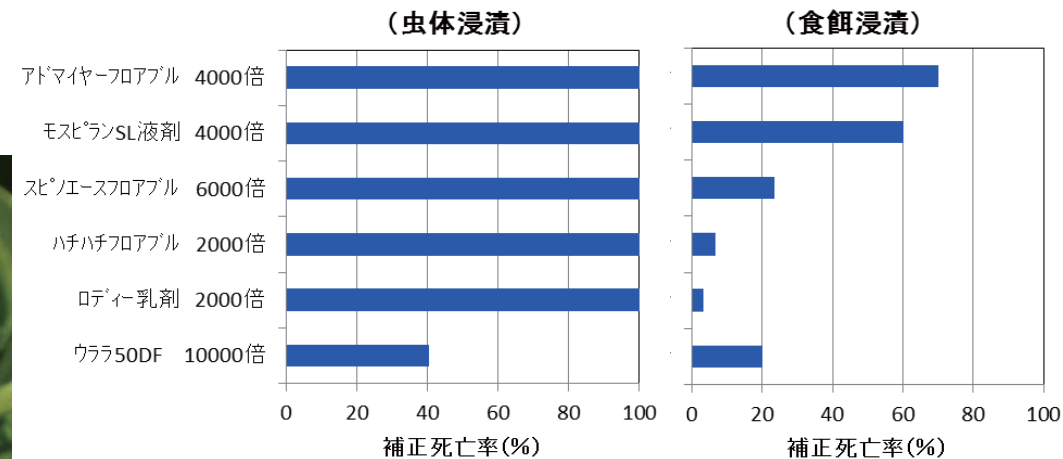
写真4: 薬剤の効果試験に供試した果実に発生した褐変症状(赤色円内)。

新梢の萎れや芽の脱落などは今回の試験では確認されなかったが、**枝や葉が褐変した**。また、果実では、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ等)と同様の褐変症状を確認した。**少数の寄生では実害は無いと思われるが、群集すると被害が発生する恐れがある。**

写真4

また、果実では、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ等)と同様の褐変症状を確認した。**少数の寄生では実害は無いと思われるが、群集すると被害が発生する恐れがある。**

○主要薬剤の成虫に対する効果



注1) 虫体浸漬: 薬液に虫体を10秒間浸漬し、風乾後、無処理の果実を与え25°Cの室内で2日間管理

注2) 食餌浸漬: 果実を薬液に10秒間浸漬し、風乾後、供試虫に与え25°Cの室内で2日間管理

注3) 苦悶は死亡に含み、補正死亡率を算出

ミカンハモグリガやアブラムシ類等の新梢防除に用いられることが多い薬剤を供試した結果、虫体浸漬ではウララを除き全て効果が高かった。食餌浸漬ではアトマイヤーやモスピランの効果と比較的高かったが、他は低かった。なお、供試薬剤の内、スピノエース、ハチハチ、ウララはマルカメムシ(カメムシ類)に対する適用が無い。